

令和元年度 事業報告

社会福祉法人 岡谷市社会福祉協議会

I 総括

1 地域福祉

岡谷市社会福祉協議会は、第3次地域福祉活動計画に基づき、岡谷市の地域福祉施策と連携・協力して、地域住民から寄せられる多様な生活課題を受け止め、総合相談、生活支援、小地域における住民主体による福祉活動の推進と支援、権利擁護の取り組みの強化などを行った。

新たに岡谷市からの受託事業として、岡谷市成年後見支援センターを開所し、認知症、知的障がい、精神障がいなどにより、判断能力が十分でない方に対し、「成年後見制度」を活用した専門的な支援を行う拠点として活動を始めた。

また地域に向けた取り組みとしては、岡谷市や地区社協、地域の各種団体と協力しながら、ともに支え合う地域づくりに向けて「地域のつながりの再構築」や地域サポートセンターをはじめとする「地域の社会資源の整備」など、それぞれの地域が特性を活かし、地域住民が主体的に取り組む地域福祉活動や目指す地域づくりの支援に取り組んできた。

しかしながら、本年度は、台風19号に伴う事業の中止や縮小、新型コロナウイルス感染拡大防止のための、活動の自粛や生活様式の大幅な変更など社協事業・地域福祉事業においても従来とは違った形での事業展開が求められることとなった。

今後は、新たな形での「地域活動」を模索することも念頭に、地区社協をはじめとした関係団体・機関と連携を図り、事業を展開する必要がある。

2 令和元年度重点事項

① 地域共生社会実現に向けての取り組み

昨年度に引き続き、地域共生社会の理念を共有するための、情報発信、啓発等の取り組みを進めてきた。本年度は岡谷市と協働し、21地区を訪問し、各地区の地域サポートセンターの取り組み状況や実情の把握、また地域ごとの学習会の開催に向けての説明を行った。

その中で三沢区から学習会実施の意向をいただき、三沢区、市担当課と共に調整をした結果、「三沢区地域福祉を考える会」が発足し、地域の住民による話し合いを重ねてきた。

他地区においても同様につながりを構築していけるような仕掛けとして、地域の福祉活動を支えるボランティアとして各地区に選任されている福祉推進員の役割や活動を今一度整理し、民生児童委員とも調整して理解を得ながら、今後の活動の活性化や広がり等について、地区社協を中心に地域の特性を踏まえた話し合いを進めてきた。

さらに、橋原区においても隣組単位での見守りネットワークづくりに向けての話し合いがはじめられるなど、「地域での見守り」の重要性が着実に浸透しつつあると感じている。

② 成年後見センター

岡谷市成年後見支援センターが本年4月1日に開所し、4月3日には関係者、来賓をお招きし開所式を行った。開所にともない、制度やセンター開所の周知を行うためのパンフレット作製や配布を行い、当事者、関係者、地域の皆様から勉強会や出前講座の依頼も多くいただき、年間を通じて周知・啓発活動にも努めた。

また、開所初年度ということもあり、多くの相談をいただき、窓口、電話、訪問等で担当職員を中心に対応を行った。相談及び支援件数は毎月増加傾向にあり、核家族化や高齢者の独居化が進む情勢を考えると、今後も相談及び支援件数ともに増加し続けることが予想される。

専門職の先生方や行政も加えた「運営委員会」を3回（7、11、2月）実施し、センター運営の適正化を図るとともに、各分野の専門的な見地から支援内容や今後の方針等について積極的なご意見をいただき、当会の法人後見受任等に対しても審議していただいた。

当会として、後見人を1件受任（法人後見受任）したため、引き続き支援を行っていくと共に、今後の受任体制についても検討を行っていく。

③ 法人運営

将来を見据えた組織の構築と事業展開のために、指定訪問介護事業所専門職として正規職員1名、嘱託職員1名を採用した。指定管理業務においても担当臨時職員を2名増員し、業務体制の強化と勤務環境を改善した。併せて「働き方改革」の実現に向けた取り組みとして、研修会への参加や事務局内での検討、岡谷市との調整など行ってきてきた。休日に開催されるイベントなどの合同開催や事業そのものの見直しなど検討してきたが、今後も将来を見据えた事業や活動の在り方など検討を重ねていく必要がある。

また、本年度は台風19号災害において県内に設置された災害ボランティアセンターの運営のためのスタッフとして多くの職員を積極的に派遣した。被災住民及び被災地域の復旧・復興に寄与するとともに、平成18年豪雨災害支援の経験から得た教訓及び知識が希薄になっている現実からは、今後も広く伝承していくことの重要性を認識する機会となった。

新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みとしては、事務所内の消毒、換気や受付にビニール幕の設置、マスクの着用、職員の時差出勤などの対応を行ってきた。近年は、全国各地で災害が頻発するとともに、昨年末からは新型コロナウイルス感染防止のための対応が求められるなど、様々な事象に応じたリスク管理の重要性がより一層高まっている。

岡谷市社会福祉協議会においても、利用者・家族及び職員の安全を確保することやサービスの質を保証する等のために、事前にリスクを回避するための措置、起きた場合の対応など、双方からのリスクマネジメントに、これまで以上に取り組む必要がある。

3 介護保険・障害福祉サービス

岡谷市社会福祉協議会では、「居宅介護支援事業所(ケアマネージャー)」、「訪問介護事業所(ホームヘルパー)」、「就労継続支援B型事業所(作業所)」の3つの事業所において、介護保険、障害福祉サービスを展開している。

幅広く地域福祉の推進に取り組む社会福祉協議会の特性を活かして、他の事業所が取り組みにくい複合課題を持つ利用者の積極的な受け入れを行ってきた。

また、様々な問題を抱える困難ケースが増え、セーフティネット機能がますます期待される中、当事業所の介護従事者においても介護技術はもちろんのこと、相談支援、地域資源の活用、権利擁護など他の制度や社協事業への理解を深めるための研修や、台風19号災害ボランティアセンターのスタッフ派遣に参加し、被災者支援の現場を感じるなどを通して、人材の育成や体制整備に力を入れてきた。

※介護保険・障害サービス事業所の実績報告は15Pから一括記載しています。

II 主たる事業・会議等の開催

月	日	説 明	月	日	説 明		
4月	6日	手話奉仕員養成講座開始	10月	3日	共同募金運動開始(10/1~12/31)		
	8日	手話奉仕員フォローアップ講座開始		9日	ブロック生活支援コーディネーター連絡会議		
	22日	地区社協会長会監査会		12日	高齢者クラブマレットゴルフ大会		
	23日	定例正副会長会(月1回)		12日	岡谷市社会福祉大会・ふれあい祭り & ボランティア祭り(中止)		
	24日	地区社協役員研修会		12日	災害派遣開始(佐久市・長野市災害VC) (10/12~12/22)		
5月	27日	諏訪ブロック社協局長・次長会議	11月	15日	正副会長会		
	9日	育児ファミリーサポートセンター 提供会員研修会(全6回)		23日	諏訪ブロックボランティア研究集会		
	16日	社協・共同募金委員会 監査会		31日	彦根市佐和山学区社協視察研修会 (10/31~11/1)		
	17日	ブロック社協ボランティア担当者会議		12月	9日	福祉バザー	
	21日	正副会長会			13日	鎌倉市腰越地区視察受入	
22日	高齢者クラブ連合会定期総会	14日	第1次 災害ボランティアバス派遣 (長野市/14日・15日・16日)				
27日	理事会	20日	諏訪湖ハイツ秋の防災訓練				
29日	評議員選任・解任委員会 社会福祉推進校連絡会議	21日	高齢者クラブ芸能祭				
6月	1日	サマーチャレんじ2019募集開始	12月	21日	地域活動いとぐち教室(全5回)		
	3日	地区社協会長会総会・歓送迎会		22日	諏訪ブロック社協役員職員合同研修会		
	10日	評議員会		27日	正副会長会 共同募金会審査委員会		
	12日	高齢者クラブカラオケ大会		1月	11日	第2次 災害ボランティアバス派遣 (長野市/11日・12日)	
	11日	正副会長会			14日	「地域ささえあい」研修会	
	14日	理事会			17日	正副会長会 地区社協会長会研修会	
	14日	諏訪ブロック社協総会(下諏訪町)			2月	15日	高齢者クラブボウリング大会
	19日	諏訪湖ハイツ春の防災訓練				21日	障がいについて理解するための学習会
20日	会費収納説明会	22日	正副会長会				
20日	共同募金会審査委員会	理事会					
26日	障害者福祉推進実行委員会監査会 共同募金運営委員会 岡谷市障害者福祉推進実行委員会総会	31日	地区社協会長会 市長懇談会				
7月	3日	社協会費収納開始(7/1~8/30)	3月	11日	ブロック社協ボランティア担当者会議		
	6日	朗読講座(全5回)		13日	正副会長会		
	10日	おかやボランティア連絡協議会研修会		15日	共同募金会審査委員会		
	10日	サマーチャレンジ事前研修会		17日	理事会		
	12日	正副会長会		24日	ふれあいいきいきサロン交流会(中止)		
	17日	高齢者クラブ体育大会	28日	おかやボランティア連絡協議会総会・ セミナー(セミナー中止)			
	20日	第1回ハートリーフ事業(中止)	17日	評議員会(書面により開催)			
	22日	サマーチャレんじ2019体験開始(~8/31)	【その他定例会議/毎月】				
24日	生きがいデイサービス ボランティアリーダー養成研修(全6回)	おかやボランティア連絡協議会定例会 高齢者クラブ三役会・理事会 生きがいデイサービス援助員会議 事務局ミーティング					
26日	諏訪ブロック社協局長・次長会議						
8月	14日	太鼓まつり ふれあいおどり連					
	23日	正副会長会					
	25日	地区社協会長会研修会					
	29日	岡谷市防災訓練 理事会					
9月	13日	ふれあい祭り&ボランティア祭り 説明会					
	20日	長野県福祉大会(駒ヶ根市)					
	24日	正副会長会					
	28日	共同募金説明会 ふれあいの集い(ぶどう狩り)					

III 岡谷市社会福祉協議会事業推進組織・役職員体制

(1) 役員

令和2年3月31日現在

理事会	事業推進執行機関	会長1名・副会長3名・常務理事1名・理事11名
監事	事業・会計監査	学識経験者1名・税理士1名
評議員会	議決機関	地域・各種団体代表等34名

(2) 職 員

事務局長兼常務理事	1名	居宅介護支援事業所長・訪問介護事業所長
事務局	11名	正規8名・嘱託3名
居宅介護支援事業所	7名	ケアマネージャー(正規4名・嘱託3名)
訪問介護事業所	21名	ホームヘルパー(正規5名・嘱託1名・パート15名)
おかや総合福祉センター	10名	館長(嘱託1名)・事務員兼業務員(嘱託3名・臨時6名)
ひだまりの家	7名	所長(嘱託1名)・指導員(正規1名・嘱託1名・臨時4名)
生きがづくりデイサービス	3名	援助員(臨時3名)
結婚相談所	1名	結婚相談員(臨時1名)
日常生活自立支援事業	4名	生活支援員(臨時4名)
合 計	65名	

IV 事業の実施報告

第3次地域福祉活動計画に基づき事業を推進してまいりました。計画に掲げた4つの基本目標に沿って実施した事業の報告をいたします。

基本目標1 地域福祉活動の輪を広げる

(1) 福祉意識の普及

様々な事業を通じ、また各種媒体を活用し、市内全体に福祉意識を広げた。

① 岡谷市社会福祉大会・ふれあいボランティア祭りの開催 開催中止

日 時	令和元年10月12日(土)		
内 容	午前：式典・表彰・市民活動・ボランティア団体発表 / あいとぴあホール 午後：ふれあいボランティア祭り / 諏訪湖ハイツ 芝生広場		
表 彰	市社協会長表彰	社会福祉事業特別功労者	26個人
		褒 賞	34個人・3団体
		感謝状	1個人・4団体
	共同募金会岡谷市支会会長表彰		
		感謝状	9団体

今年度、初めての試みとして、福祉大会とふれあいボランティア祭りの2大イベントの合同開催を企画し、ボランティア連絡協議会など関係機関との準備を進めてまいりましたが、台風19号の接近に伴う非常事態を想定し大会の開催中止を決定いたしました。

福祉大会・ふれあいボランティア祭り共に開催の中止は、初めてのことであり大変残念な結果となりましたが、今回の経験を今後の事業運営に生かしていきたい。

② 社協だより「ゆめ」の発行 年12回・全戸配布

③ 地区社協だよりの発行 16地区

④ 福祉教材の貸出

高齢者疑似体験セット	湯けむり(平成会)
車いす	湊小学校
点字器	湊小学校

⑤ 福祉教育の実践(体験学習会等)

岡谷北部中学校福祉学習会	
6/6	高齢者疑似体験
6/11	認知症サポーター養成講座(平成会)
6/27	講演「高齢者福祉の現状と私たちにできること」(市介護福祉課)
7/4	「高齢者施設職員のお話を聞く」(さわやか信州絹の郷)
8/29・9/5	施設訪問 さわやか信州絹の郷 入居者との交流

岡谷南部中学校福祉学習会			
6/6	福祉についての調べ学習	6/28	福祉についての勉強会
7/3	高齢者疑似体験・車いす体験	7/4	手話体験
7/12	認知症についての学習会	7/18	体験振り返り

岡谷西部中学校総合学習	
10/18	各講座の学習内容の発表・「岡谷の文化」について地域の高齢者の皆さんとの交流

市内3中学校において、3年生の総合講座の中で「岡谷市の福祉について」の体験学習や施設訪問学習を行ってきており、市社協としてもその学習に対する支援を行ってきた。また、各学校で文化祭発表など学習成果のまとめを行い、その成果を諏訪湖ハイツでも展示し、市民の方々にも見ていただく機会を設けた。

岡谷田中小学校 3年2組との交流	
9/19	おかや総合福祉センター見学
10/2	古切ボランティア活動に協力 ハイッ202研修室

岡谷田中小学校の3年2組の学習の中で、自分たちの地域にある社会資源として、おかや総合福祉センターや社会福祉協議会の存在を知り見学を行った。そこから「福祉について」や「ボランティアについて」の学習を行う機会に繋がり大変良い交流となった。

福祉大会では「よさこい踊り」の発表を予定していたが、開催できず大変残念であった。

⑥ 社会福祉推進校事業の推進 5月29日 連絡会議開催

小中高14校（全校）を社会福祉推進校に指定し、福祉教育活動への助言指導とともに、活動費の助成を行った。教育委員会との意見交換や校長会へ出席し、学校現場との協力関係の構築に努めた。

⑦ ボランティア活動体験事業 サマーチャレンジ2019

実施期間	令和元年7月22日(月)～8月31日(土)
参加者	中学生85名・高校生19名・大学生・専門学校生12名・一般0名 (合計 116名)
実施施設	保育園(15) 高齢者施設等(6) 子育て支援館(1) 生きがいデイサービス(1)

7月から8月の間に市内の各会場で、学生から社会人まで多くの方がボランティア体験をしていく中で、ボランティアへの関心をさらに深め、今後の活動へのステップとすることを目的として開催した。活動終了後、参加者には「ふりかえりシート」を提出してもらった。中学生については「ふりかえりシート」を9月末で取りまとめ各中学校にお送りし、生徒の活動の様子を知っていただく機会とした。

⑧ こどもの居場所・こども食堂

信州こどもカフェ運営支援助成金への申請 3件 計 110,000円

こども里山広場を開催する会	50,000円
(株)和が家	30,000円
岡谷市で子ども食堂を真剣に考える会	30,000円

(2) ボランティア活動への支援

ボランティア登録者数	総数	3,090名
内訳	全市的ボランティアグループ	48グループ 3,058名
	企業ボランティアグループ	1グループ 5名
	個人ボランティア	27名

① ボランティア連絡協議会との連携強化 加入 団体21・個人14名

② ボランティアコーディネート機能の充実・強化

各地区、市内外福祉施設へのボランティア紹介 コーディネート件数 39件
 内容 施設での演芸活動・日本語教室への紹介・傾聴ボランティアの調整など

ボランティアセンター管理、整備 利用状況：20団体・個人 345回 2,470人

③ ボランティア保険の普及、加入

加入者総数 1,756名

保険内容	加入者数	保険内容	加入者数
A°ラン(社協補助あり)	1,071人	A°ラン(災害社協負担分)	151人
A°ラン(全額自己負担)	296人	天災A°ラン《災害ボランティア》(社協負担)	33人
A°ラン(サマーチャレんじ分)	116人	天災A°ラン《災害ボランティア》(全額負担)	53人
B°ラン(社協補助あり)	19人	天災A°ラン《災害ボランティア》(一部社協負担)	9人
		天災B°ラン《災害ボランティア》(社協負担)	8人

④ 朗読講座の開催

5回シリーズ 受講者7名

⑤ 地域活動いとぐち教室の開催

11月21日～12月19日 (5回シリーズ)

第1回	ボランティアについて	6名参加
第2回	地域で行う助け合い活動「まゆっこサポート」	9名参加
第3回	相手の話に耳を傾ける「傾聴」	11名参加
第4回	ボランティア見本市	5名参加
第5回	コーヒーを淹れて茶話会・振り返り	6名参加

「ボランティアに興味がある」「何かはじめてみたい」という思いのある方たちにむけて、活動の第一歩へのきっかけづくりとして、昨年に引き続きカルチャーセンターと共同開催した。

「ボランティア見本市」という新たな試みも取り入れ、少人数ではあったものの、参加者からは「方向性を見出せそう」「参考になることが多かった」といったご意見をいただき満足度の高い講座となった。

⑥ 傾聴ボランティア講座の開催

申込者 26名

第1回	2月20日(木) 傾聴の基礎・ロールプレイ	21名参加
	2月22日(土) 1回目欠席者へのフォロー講習	5名参加
第2回	2月27日(木) ロールプレイ・実習に心構え	23名参加
	施設実習(3月～4月)	延期

より多くの方に傾聴への理解を深めてもらうため、「傾聴みみずく」に協力いただきながら計画、開催した。

多くの参加者を迎え、1回目、2回目の講義を終えて施設実習に入る予定で市内高齢者施設と調整を進めていたが、新型コロナウイルス流行のため、以降の開催が延期となった。次年度以降の実施を予定している。

(3) 地区社協への支援

① 地区社会福祉協議会の充実と活動の推進

○地域に出向き、情報提供、意見交換等を行い、地区社会福祉協議会の活動を支援した。	
5/13 橋原地区社協理事会	5/17 岡谷地区社協理事会・評議員合同会議
5/21 東堀地区社協・福祉推進員・民生児童委員合同懇談会	
5/24 橋原区地域サポートセンター総会	6/6 小坂地区社協福祉推進員会議
6/17 横川地区福祉推進員会議	6/19 新倉地区社協地域福祉推進研修会
6/21 小口地区社協福祉推進員研修会	7/9 上浜地区社協昼食会
7/12 西堀地区社協福祉推進委員会	7/22 東堀地区社協
2/25、3/25 橋原区地域サポートセンター高齢者福祉部会	
○地区社協会長会では、「福祉推進員」をテーマに懇談会でグループワークを実施した。	
8/23 「福祉推進員の活動について」	
12/17 「福祉推進員のあり方について」	

② 地区福祉ニーズ対応事業(福祉推進員設置事業) 福祉推進員総数 327名

今井23名・間下22名・岡谷20名・下浜11名・小尾口6名・上浜18名・新屋敷12名・小口17名 小井川28名・西堀16名・小坂8名・花岡19名・三沢31名・新倉12名・駒沢5名・鮎沢5名 橋原6名・東堀30名・中屋18名・中村5名・横川15名
--

福祉推進員については、民生児童委員協議会の意見もいただきながら「福祉推進員の活動の考え方」のチラシを作成し各地区に配布するとともに、地区社協会長会懇談会、県外視察研修においてもテーマとして取り上げ、あらためて各地区における福祉推進員のあり方について考える機会とした。

- ③ 地域支え合い会議（旧 地区地域課題検討会議） 各地区社会福祉協議会で開催 25回
自分たちの住む地域の気になることなどを気軽に話し合える機会として各区での開催を推進している。

- ④ 地区社協会長等視察研修 令和2年10月31日・11月1日 滋賀県彦根市佐和山学区社会福祉協議会
地区社協会長等18名の参加をいただき、「福祉推進員」「見守り」をテーマに彦根市社協における見守りあい活動や佐和山学区社協の地域福祉活動について学んだ。
彦根市社協の取り組みやパンフレットなど資料が解りやすく、地域で行われている研修でも有効に活用させてもらっている。

- ⑤ 地区社協役員研修会の開催 4月24日 諏訪湖ハイツ大会議室
各地区社協役員対象に、岡谷市が目指す地域福祉についての話や地域福祉活動振興補助事業の説明を行った。

- ⑥ 地区活動助成

地区社協で行う各事業に補助を行い、地域福祉活動の振興を図った。

地区社協基盤強化助成金	21地区		2,310,000円
福祉推進員助成金	21地区	327名	3,270,000円
地域福祉活動振興事業補助金		304件	2,416,290円
友愛訪問・施設訪問	16件	会食会 23件	配食 44件
研修会・講習会開催	5件	福祉懇談会・会議棟	55件
啓発・調査	36件	世代間ふれあい事業	4件
地区社協における集いの場事業 121件			

(4) 社会参加への支援

- ① 地区主催「敬老事業」への助成

- ② 岡谷市高齢者クラブ連合会への支援 18単位クラブ

昨年度に引き続き、クラブの会報誌を第2号を発行することができた。隣組にて全市回覧を行うなど、クラブの活動をPRするとともに会員勧誘などに利用し、会員増強への足掛かりにしていきたい。

- ③ 障がい者地域生活支援事業等（市受託事業）

ア 手話通訳者設置

窓口での相談・通院等	20回	市関係行事での通訳	6回
------------	-----	-----------	----

イ 手話通訳者・要約筆記者派遣事業

手話通訳者派遣	16件	31.8時間(講演会等)	通訳者数	7名
要約筆記者派遣	4件	15.0時間(講演会等)	通訳者数	7名

台風19号による災害及び新型コロナウイルス感染拡大によるイベント等の中止に伴い通訳派遣件数も少なくなった。

ウ 6市町村手話奉仕員養成講座 41回シリーズ

諏訪6市町村の方対象として開催 入門課程(18回)修了者 3名 全課程修了者 12名
講座修了者の中から、通訳者を目指す方もおり、聴覚障害者への理解に成果が見られた。

② 地域サポートセンター設置促進体制整備事業

岡谷市と共に打ち合わせを重ね、ネットワーク会議の開催を検討してきたが、コロナウイルスの影響もあり今年度はネットワーク会議の開催には至らなかった。

本年度、各地区を訪問し各区のセンターに対する考え方や状況などを聞かせていただくことができた。各区の実情に合わせたサポートセンターの実現に向けて、今後も生活支援体制整備事業と一体となって進めていく。

基本目標 2 福祉サービスの利用を促進する

(1) 情報提供の充実

- ① ホームページ、フェイスブックによる情報掲載

(2) サービスの提供

- ① 日常生活自立支援事業の推進（県社協受託事業）

相談内容	認知高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	対象外
問合せ	8件	5件	6件	0件	0件
初回相談	34件	18件	18件	0件	-件
相談援助	1,250件	1,244件	1,779件	0件	-件
計	1,292件	1,267件	1,803件	0件	0件
契約	本年度契約件数 10名 (内 生保 7名 管内市町村 0名)			事業開始からの契約件数	285名
解約	本年度解約件数 13名 (内 生保 2名 管内市町村 0名)			事業開始からの解約件数	204名
実利用者数	81名				
訪問調査回数	延べ 314回 (対象者 64名)				
利用援助回数	延べ 4,273回 (対象者 81名)				
書類等預かり	基幹的社協 80件 管内市町村		1件		計 81件
ケース検討会議	対象者 32名		延べ 102回		
支援員連絡会議	1回				

相談件数、契約件数共に落ち着いてきているが内容としては、世帯ごとの支援が必要なケースや課題が複雑かつ困難なケースが増えてきている。

精神に障害を抱える方々のケースが非常に多くなってきており、若年層の利用者も多くなってきているため、今後長期的に関わるケースが増加しているため、担当者の引継ぎなど課題となってくると思われる。

- ② 金銭管理、財産保全サービス事業の推進（市社協単独事業）

契約件数	解約件数	実利用者数
5名	4名	6名

- ③ 岡谷市成年後見支援センター（市受託事業）

新規相談件数	58件	継続相談件数	404件	相談者(実人数)	151名
相談件数合計	462件	内完了件数	187件	内継続件数	275名

法人後見の状況	現在の後見人等の受任件数	1件
---------	--------------	----

対象者別	相談内容		問合せ・相談	
	認知症	122名	問合せ・相談	245件
知的障がい	94名	申立て支援	12件	
精神障がい	240名	継続支援	190件	
その他	6名	家裁への手続き	1件	
		法人後見受任	14件	
相談者機関別	本人	112件	相談専門員(障がい)	22件
	親族・家族	70件	医療機関	27件
	知人	5件	司法関係	3件
	行政(包括含む)	129件	後見関係専門職	2件
	ケアマネ(介護)	35件	後見等受任者	20件
	介護施設関係	15件	その他	22件

- ・4月3日 岡谷市成年後見支援センター開所式
【主な会議・打合せ・研修等】
- ・専門職との打合せ・諏訪6市町村等との会議 計11回
- ・出前講座等講師派遣等 計6回
- ・「成年後見制度」「後見センター」に 関連した研修会等への参加 計8回
- ・センター運営委員会の開催 計3回

(3) 福祉の相談窓口の充実

① 福祉総合相談

コロナウイルスによる感染や生活への不安などを心配する相談等はほとんど見られなかったが、3月に入ってコロナウイルスの影響による貸付に関する相談が増えてきた。

② 心配ごと相談事業・ふれあいおしゃべり電話

定例相談日	毎週 月～金曜日	8:30～17:15
相談員	社協職員	
利用者数	11名	(男性1名・女性10名)
取扱件数	12件	(生活困窮・貸付に関する相談件数は別に記載)

相談内容としては、家族間のトラブル・ゴミの問題・介護事業所の職員の対応などの相談があった。対応として環境課や包括支援センターなどにつなげている。生活困窮による貸付の相談が非常に多くなってきており、3月からは新型コロナウイルスの影響による貸付相談も出てきている。報告として記載されていませんが、日常生活自立支援事業や介護・障害サービスの利用者などから昼夜を問わず電話や訪問による相談が非常に多く寄せられており、職員が日々その対応に追われている。

③ 結婚相談事業

96日開所		毎週火曜日、第1・3土曜日、第2・4木曜日(夜間相談日)				前年比
平均相談数		火曜日	木曜日	土曜日	1日あたり	
内訳	男性	0.3	0.3	1.3	0.5	0.1名増
	女性	0.1	0.5	0.5	0.3	増減なし
	親族	0.7	0.1	0.4	0.5	0.1名増
合計		1.1	0.9	2.2	1.3	0.2名増
相談者数(来所者)		男性(本人) 52名			計 121名	13名増
		女性(本人) 25名				
		親・親族等 44名				
電話対応		344件				
登録者数(3/31現在)		男性 29名			計 34名	14名減
		女性 5名				
お見合い件数		8件	カップル成立		3組	1組増

前年度に比べ相談者は増加しているが、本人でなく親御さんの相談が多く、逆に登録者数は減少している、特に女性の登録者の減少が大きい。お見合い件数などの減少に繋がっている。また、相談日も土曜日の相談に集中している傾向であるため、新たに相談日を設定し直したり、予約制の導入を検討していく必要がある。

昨年度登録者同士でお付き合いしていたカップルから結婚したとのうれしい報告をいただいた。

④ ハートリーフ事業

開催日	場所・内容	申込者	
令和元年7月20日(土)	Sports Café ELEVEN 25歳～45歳対象 浴衣で合コン	男性 4名	中止
		女性 1名	
令和2年2月15日(土)	がぶ飲みワイン食堂 EiEiOh 25歳～40歳対象 合コン形式	男性 8名	中止
		女性 1名	

新たな試みとして、企業と協働し浴衣を着てのパーティーなどを企画しましたが、女性の申し込みが少なく、2回共に中止となってしまった。

近隣市町村での開催や広域連合、市内においても勤青ホームなどでも開催されるなど女性対象者にとってイベントの供給過多の状況が考えられる。

当面の間、ハートリーフ事業は見合わせて相談事業をメインとして、市内外で行われるイベントへの協力体制をとっていくこととする。

基本目標3 住み慣れた地域で誰もが安心して暮らせるようにする

(1) 高齢者・障がい者在宅サービスの充実

① 生きがいデイサービス事業（市受託事業）

援助員91名（内訳 地区活動援助員 87名 市社協援助員 4名） ※平成30年度援助員81名
地区活動援助員87名（内訳）今井区16名・間下区17名・岡谷区12名・下浜区2名・小尾口区 1名
小口区 1名・小井川区 6名・西堀区11名・駒沢区 4名・橋原区 6名・中村区 5名・三沢区 2名
東堀区 4名

名 称	会 場	参加人員	グループ数	延回数
いきいきデイいまい	今井区公会所 今井区民センター	35名(男9名・女26名)	3グループ	65回
いきいきデイ間下	間下区民センター	42名(男0名・女42名)	5グループ	108回
いきいきデイおかや	岡谷区公会所	38名(男1名・女37名)	3グループ	64回
すこやかデイ下浜	下浜区民センター	6名(男0名・女 6名)	1グループ	21回
いきいきデイ小尾口	小尾口区公民館	6名(男0名・女 6名)	1グループ	22回
いきいきデイ上浜	上浜公民館	13名(男0名・女13名)	2グループ	44回
いきいきデイあらやしき	新屋敷会館	17名(男3名・女14名)	2グループ	43回
いきいきデイおぐち	小口区民センター	17名(男0名・女17名)	2グループ	44回
いきいきデイ小井川	小井川区民会館	49名(男1名・女48名)	5グループ	109回
いきいきデイ西堀	西堀公会所	214名(男54名・女160名)	19グループ	406回
ふれあいプラザみなと	ふれあいプラザみなと	17名(男1名・女16名)	2グループ	43回
いきいきデイつるみね	三沢区コミュニティ施設	15名(男0名・女15名)	2グループ	44回
いきいきデイ新倉	川岸公民館 夏明公会所	28名(男3名・女25名)	3グループ	66回
いきいきデイ駒沢	駒沢区公民館 荻山会館	18名(男0名・女18名)	2グループ	43回
いきいきデイ鮎沢	鮎沢区公民館	9名(男3名・女6名)	1グループ	21回
いきいきデイ橋原	橋原公会所	9名(男3名・女6名)	1グループ	22回
いきいきデイしばみや	柴宮館 権現コミュニティ会館	53名(男28名・女25名)	4グループ	84回
いきいきデイ中村	中村区民センター	29名(男0名・女29名)	3グループ	65回
いきいきデイ横川	横川公会堂	24名(男0名・女24名)	3グループ	64回

今年度新たに、下浜区においても地区援助員による活動に切り替わり、地区により運営されている地区も市内で13地区となった。

事業開始から20年を経過し、地域での運営も増えてきており各区の独自性もでてきている中で、改めて「介護予防」の意識を再確認し、今後も継続していけるよう事業の見直しについて検討を重ねてきました。

2月末からは、新型コロナウイルス拡散防止のため全地区で開催を休止しており、多くの利用者さんから再開の問い合わせをいただくなど、改めて事業の重要性を確認しました。

② まゆっこサポート（住民参加型有償在宅福祉サービス事業）

家事援助サービス	登録協力会員	登録利用会員	年間実利用者数	年間実働協力会員数
	12名	27名	15名	10名
			年間延べ利用時間	対応延べ回数
		352時間	302回	

会員相互の助けあいの仕組みとして、家事援助(買い物、掃除等)を行った。

③ ふれあいの仲間づくり事業

配食事業 今井・間下・岡谷・下浜・小尾口・新屋敷・小口・西堀・小坂・花岡・三沢・ 新倉・鮎沢・橋原・東堀・中屋・中村・横川
会食事業 今井・間下・岡谷・下浜・上浜・新屋敷・小口・小井川・西堀・小坂・ 駒沢・橋原・中屋・中村・横川
地区社協における集いの場事業 新屋敷・小口・小井川・下浜・間下
世代間ふれあい事業 岡谷・上浜・小口

地区社協で行われている事業に対し助成を行っているが、財源の確保が難しくなっている。
今後も事業の在り方や助成の仕方、新たな財源の確保などについて検討が必要である。

④ ふれあいいいききサロン事業

登録グループ数	会員数	延べ活動回数	延べ参加者数
7グループ	152名	115回	1,659名

ふれあいいいききサロン登録団体には、活動に対する助成金やボランティア行所用保険の案内、活動上の相談等の支援を行っている。

グループ間の活動状況についての情報共有等を目的に、昨年度に引き続き令和2年3月24日に交流会を計画したが、新型コロナウイルスの影響により中止することとなった。

⑤ 友愛訪問・施設慰問

今井・間下・岡谷・小尾口・下浜・上浜・小坂・新倉・駒沢・鮎沢・橋原・東堀・横川
平成31年3月11日（月） ふれあいいいききサロン交流会 ふれあいいいききサロン登録団体 5団体10名、その他 3団体7名

ふれあいいいききサロン事業において、近年生涯学習活動と混在している状況が見受けられていた。今後地域の居場所としてのサロン活動をさらに展開していくにあたり、要綱の見直しを行い生涯学習活動にあたる活動（講師に指導を受けている）団体については、ふれあいいいききサロン事業の対象外とし、各団体に説明を行い9月末までの猶予を持って助成を終了した。

また、ふれあいいいききサロン交流会をはじめ開催し、登録団体以外にも地域でサロン活動をしている方、興味のある方に声をかけ、17名の参加があった。日頃の活動の様子について等の情報交換を行うことができた。交流会は、次年度以降も継続していきたい。

⑥ 車いす移送車レンタカー事業 2台使用 利用者 15名 68回

⑦ 車いす貸出し事業（介護保険適用以外） 個人39名 39台 ・ 1団体 6台

⑧ 福祉機器リサイクル事業 譲受 6件 譲渡 3件
シャワーベンチ・ポータブルトイレ・介護用ベッド

(2) 介護保険事業・障がい福祉サービス事業の充実

① 居宅介護支援事業所（介護保険居宅介護支援事業/総合事業支援業務/特定相談支援事業）

② 訪問介護事業所（介護保険訪問介護事業/障がい福祉サービス訪問介護事業）

③ 就労継続支援B型事業所（就労継続支援B型事業/障がい者地域活動支援センター）

社会福祉協議会の運営する事業所として単に介護保険・障がい福祉サービスの提供に限らず日常生活自立支援事業や生活困窮などの他の社協事業との連携を行うなど、岡谷市や関係機関、地域との連携を意識しながら事業を行ってきた。

また、実習の受け入れや研修など福祉人材の育成についても積極的に行っている。

※介護保険・障害サービス事業所の実績報告は15Pから一括記載しています。

(3) 子育て支援サービスの充実

① 育児ファミリーサポートセンター事業（保育/市受託事業）

会員登録状況

提供会員	20名	新規登録 1名、退会 4名
依頼会員	48名	新規登録 7名、退会 179名

活動状況

利用件数	44件	利用時間	116時間	年間実利用者数 4名
				年間実働提供会員数 4名
預かり内容	保護者の習い事中的預かり 保育園、学童クラブからの送迎、預かり 保護者の就職等の面接による預かり			

提供会員を対象とした研修会を開催し(6回)、サービスの向上を図った。

② まゆっこサポート事業（団体保育）

団体保育サービス	託児数	対応件数	延べ協力会員数	延べ活動時間
	利用団体 6団体	192件	657名	1293時間
	就学前 1518名			
	就学児 0名			

※協力会員は、育児ファミリーサポートセンターの提供会員を兼ねる

③ 児童遊園地の新設、遊具等の整備助成事業

今井区・今井地区社協・下浜地区社協・小井川地区社協 2件・三沢区・東堀地区社協・中村区

(4) 安全・安心な市民生活をサポートするサービスの充実

① 戦没者慰霊事業

② 生活困窮者サポート事業

ア 貸付に関する相談

相談件数（本人来所、窓口対応）	36件
-----------------	-----

貸付に関する相談を通して、家計相談や貸付金等の事業も視野に入れ、関係機関と連携し、相談者の生活の自立を支援する活動に取り組んだ。

③ 助け合い資金貸付事業（市社協単独事業）

貸付人員	11名 12件	220,500円
償還取扱件数	14名 41件	194,500円
償還未納金額	29名	639,500円

生活保護受給のつなぎ資金を中心に貸付を行った。また、緊急小口資金をはじめ生活福祉資金の支給までのつなぎなどの貸付が多くなっている。

④ 生活福祉資金貸付事業（県社協受託事業）

福祉費住宅転宅費	1名 1件	300,000円
緊急小口資金	1名 1件	80,000円
緊急小口資金（コロナ特例）	4名 1件	700,000円

3月から緊急小口資金（コロナウイルス特例）の貸付が開始され、岡谷市でも3月25日に最初の申請を受け付けた。3月末までに4件の貸付があったが今後多くの申請があるものと予想される。

⑤ 資機材等貸出サービス

プロジェクター・スクリーン	6件	テント	1件
綿あめ機器	4件	防災用かまど一式	1件
ポップコーン機器	5件	大型遊具等	20件
ポッチャ	18件	御柱用おんべ	1件

地域団体や福祉施設などに対し社協管理の資機材や大型遊具等の貸出を行い、地域の祭りやサロン活動などで利用され大変喜ばれており有効活用につながった。
本年度購入したポッチャが大好評であった。

⑥ 災害時相互応援協定による職員・ボランティア派遣

台風19号災害ボランティアセンター職員派遣の状況		
10/12～10/19	佐久市災害ボランティアセンター派遣	
10/17～12/20	長野市北部災害ボランティアセンター派遣	
10/13	須坂市災害ボランティアセンターへ資機材搬入	
D S A T	派遣(県内社協職員による災害初動時先遣チーム)	延べ15日 延べ15名
社協(諏訪)	ブロック派遣	延べ17日 延べ24名
市町村社協	スポット応援派遣	延べ29日 延べ47名
その他ボランティア	バス引率(職員)	延べ5日 延べ5名

長期間に渡る支援のため、事務局職員だけでなくケアマネージャー、ホームヘルパーもボランティアスタッフとして参加をした。活動期間中は、ほぼ切れ目なく派遣を継続でき、現地の要請に答えることができた。

ボランティア派遣の状況(ボランティアバス)		
第1回 ボランティアバスバック募集		
11/13	ボランティア 22名参加	穂保地区住居等
11/14	ボランティア 19名参加	農業復興プロジェクト参加
11/15	ボランティア 28名参加	穂保地区住居等
第2回 ボランティアバスバック募集		
12/14	ボランティア 22名参加	穂保地区住居等
12/15	ボランティア 15名参加	穂保地区住居等

台風19号災害被災地に対し岡谷市と連携しボランティアバスによるボランティア派遣を行った。急な募集にも関わらず5日間で100名ものボランティアの参加があり、被災地での活動を行った。

基本目標4 社会福祉協議会の基盤を強化する

(1) 組織の強化

① 新たな事業展開についての調査研究

行政、関係機関等と連携を図る中で、将来を見据えた事業展開について研究した。
特に権利擁護事業(成年後見制度支援)については、日常生活自立支援事業を含む、切れ目のない権利擁護の仕組み・体制づくりに向けて、行政と協議を重ねた。
新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動自粛など余儀なくされる中で、新たな事業展開に向けての協議も進めていく。

② 職員体制の強化

役員も新体制から2年目となり、更なるガバナンスの強化を図る中、各部門、事業間で連携し、一体的に事業を推進する体制づくりを進めた。
また、新規事業や介護事業所の今後の体制を見据え新たな人材の確保に向け取り組むとともに、サービスや職員体制の適正化やコスト節減などを図った。今後の安定的な財源基盤の確保や、同一労働同一賃金の実現に向けた取り組みを始めていく。

③ 社会福祉協議会職員の研修

災害や感染症などの影響により予定していた研修など中止となってしまったものも多かったが、災害ボランティアセンターへのスタッフ派遣に事務局職員以外にも事業所の職員も派遣することができた。被災住民及び被災地域の復旧・復興に寄与することはもちろん、災害支援の経験から得た教訓及び知識は、緊急時への対応に限らず、今後の社協事業、地域活動への大きな糧となるものと考えている。

④ 地域福祉活動計画の点検・評価

事業の内容、要綱等の見直しを行い、次年度の事業展開につなげた。

⑤ 会員の増強

岡谷市社協の役割、会費の使い道等、市民に充分理解されるよう努めた。

⑥ 諏訪ブロック内各社協との連携強化

成年後見支援センターをはじめ、「働き方改革」や同一労働同一賃金に向けた取り組みなど、諏訪圏域6市町村で情報の共有や学習会の開催など連携強化を図っている。

また、新型コロナウイルス感染予防の対策の状況、事業への影響、今後の事業運営などについても互いに情報共有を行った。

(2) 財源の強化

① 岡谷市社会福祉協議会会費

収納状況

一般会費(1世帯 1,000円)	9,285件	9,262,650円(前年度 9,270件	9,237,400円)
賛助会費(1口2,000円以上)	3,937件	8,194,500円(前年度 4,122件	8,588,500円)
合計	13,222件	17,457,150円(前年度 13,392件	17,825,900円)

前年比 170件の減 368,750円の減

② 赤い羽根共同募金運動

募金方法	件数	実績額(円)	備考
戸別募金	12,470	12,660,648	
街頭募金	1	72,232	
法人募金	528	2,073,300	
学校募金	8	44,096	小学校 6・中学校 1・高校 1
職域募金	6	868,525	
イベント募金	6	200,711	
個別募金	1	1,000	
その他の募金	8	284,100	
合計	13,028	16,204,612	前年度13,191件 16,385,136円

前年比 163件の減 180,524円の減

③ 岡谷市社会福祉協議会基金及び積立金

福祉基金	251,713,527円	準備基金	7,448,740円
ボランティア及び災害活動者遺児育英資金			9,481,559円
経営安定化積立金			30,161,267円

④ 福祉基金の受付 20件 1,291,951円

遺志金	7件	210,000円
福祉基金	13件	1,081,951円

⑤ 物品寄付の受付 58件

使用済み切手	45件	米・野菜	4件
介護用品	1件	ゴム手袋	1件
タオル類	1件	マスク	1件
日用品・雑貨等	1件	カレンダー	1件
衣類	3件		

ご寄付いただいた物品は、必要とする施設や機関、利用者等へ払出し、それぞれに活用した。

V 介護保険・障害福祉サービス事業実績報告

(1) 居宅介護支援事業所

① 事業実績

ア 居宅介護支援事業（介護支援専門員による支援計画策定等）

介護区分	延べ人数	月平均	前年比（月平均）
要介護1・2	1,398名	116名	前年同
要介護3・4・5	424名	35名	9名減
合計	1,822名	151名	8名減
介護支援専門員1人当たり（常勤換算5.5名）		27名	前年同
新規契約者数	43名	契約解除者数	34名

イ 総合事業支援業務（市受託事業）

介護区分	延べ人数	月平均	前年比（月平均）
要支援1・2	401名	33名	2名増
介護支援専門員1人当たり（常勤換算5.5名）		6名	1名増
新規契約者数	6名	契約解除者数	0名

施設入所や亡くなられて終了となったケース等多かったが、新規利用者の受入れも積極的に行い、少しずつ利用者が入れ替わっている形で、件数としては昨年とほぼ変わらず支援を行った。

また、特定事業所加算算定に向けて、改めて業務手順の確認、ケース検討を中心とした勉強会の充実を図った。

ウ 特定相談支援事業（障害福祉サービス等利用計画策定等）

利用者数	前年比	計画作成数	前年比	継続支援回数	前年比
82名	7名減	70件	4件減	222件	40件増

エ 障害児相談支援事業（障害福祉サービス等利用計画策定等）

利用者数	前年比	計画作成数	前年比	継続支援回数	前年比
27名	7名増	33件	12件増	72件	25件増

児童の新規利用の希望がまだまだ続いている状況と、給付費算定基準の変更により、算定される機会が増え、支援回数が増加した。相談支援専門員は、居宅介護支援（介護保険）と兼務しているが、それぞれのケース、新規利用者の受け入れ状況等加味し、事業所全体として効率的な運営体制を検討していく。

② 定例会 新規利用者の状況、日程確認等情報共有の場として週1回開催

③ 研修会の開催・参加

毎月1回勉強会を開催 社協職員研修会へ参加
県、諏訪広域連合等関係機関主催の研修会に参加

④ 台風19号災害ボランティアセンタースタッフ派遣

(2) 訪問介護事業所

① 事業実績

ア 訪問介護事業

利用者数 (要介護1~5)		月平均	前年比	
		39名	3名 減	
新規利用者数		23名	2名 減	
			※月平均	
サービス区分	派遣回数	前年比(回数)	派遣時間	前年比(時間)
身体介護	167回	21回 減	104時間	49時間 減
身体・生活	141回	51回 減	178時間	70時間 減
生活援助	267回	69回 減	243時間	57時間 増
乗降介助	1回	1回 減	4時間	5時間 減
自費利用	13回	前年同	20時間	3時間 増
合計	589回	142回 減	549時間	64時間 減

イ 総合事業

利用者数 (要支援1・2)		月平均	前年比	
		33名	10名 増	
新規利用者数		7名	前年同	
			※月平均	
サービス区分	派遣回数	前年比(回数)	派遣時間	前年比(時間)
サービスA	21回	25回 減	17時間	38時間 減
訪問型独自Ⅰ	53回	4回 減	44時間	11時間 減
訪問型独自Ⅱ	56回	6回 増	55時間	8時間 増
訪問型独自Ⅲ	27回	5回 増	25時間	4時間 増
合計	157回	18回 減	141時間	37時間 減

ウ 障害福祉サービス

利用者数		月平均	前年比	
		51名	前年同	
新規利用者数		9名	前年同	
			※月平均	
総合支援給付	派遣回数	前年比(回数)	派遣時間	前年比(時間)
重度訪問介護	0回	1回 減	0時間	2時間 減
身体介護	58回	8回 増	57時間	4時間 増
家事援助	50回	前年同	171時間	14時間 増
通院介助	8回	2回 増	8時間	1時間 増
同行援護	26回	2回 減	50時間	6時間 増
移動支援	27回	4回 減	30時間	8時間 減
自費利用	34回	2回 減	12時間	前年同
合計	203回	6回 減	328時間	15時間 増

② ミーティング 連絡事項、利用者情報共有の場として月1回開催

③ 研修会の開催・参加

毎月1回勉強会を開催 社協職員研修会へ参加
県、介護福祉士会等関係機関主催の研修会に参加

④ 実習生の受入

長野県福祉大学校 3名 松本短期大学 1名
松本医療福祉専門学校 3名 その他 2名

⑤ 台風19号災害ボランティアセンタースタッフ派遣

介護保険、障害福祉サービス共に、積極的に新規利用者の受入れを行ってきたが、サービス提供量多かった利用者が減ってが影響し、派遣回数、派遣時間の減少となり、全体として収入減となっている。

利用者の入れ替わりにより、引継ぎに費やす時間が多くなっていることや身体介護(特に入浴介助)を希望するケースや、精神障害の利用者などむずかしいケースが多くなってきており、限られた職員での対応となっている現状が課題となっている。

10月からは、新制度の特定処遇改善加算Ⅱの算定を行ったが、その他取得可能な加算などについての検討と、改めて現状の把握を行い、人材の育成と確保を行い、効率的なサービス提供体制を整備することが必要となっている。

(3) 就労継続支援B型事業所「ひだまり作業所」

① 事業実績

開所日時	週5日(月～金) 9:00～15:00
開所日数	242日
延べ年間通所者数	3,531名 (見学・お試し利用人数等除く)
1日平均通所者数	14.6名 (前年比 0.3名減)
年間在籍通所者実数	23名 (男性 17名 女性 6名)
市町村別内訳	岡谷市 18名 下諏訪町 3名 諏訪 1名 茅野市 1名
元年度新規通所者	4名 (男性 4名)
元年度退所者	3名 (男性 3名) 転居 1名 地活のみ利用 1名 死亡 1名
30年度通所希望見学者	20名 / 延べ体験日数 60日
30年度開催行事	いちご狩り、ランチバイキング、防災訓練(春・秋) 日帰りバス旅行、忘年会、クリスマス会、餅つき、 雑煮会、スポーツ大会等 (新型コロナウイルス感染防止のためカラオケは中止)

② ミーティング 連絡事項、利用者支援に関する情報共有等、月1回開催

③ 研修会の開催・参加

社協職員研修会へ参加

嘱託医、行政ケースワーカーにも参加いただき、連絡会を開催 年4回

ケース検討、支援方法等について学ぶ

県をはじめ、障害福祉関係機関主催の研修会に参加

就労継続支援A型や一般就労を目指す利用者が数名いたが雇用に結びつかず、今年度もステップアップ出来る利用者がいなかった。通所希望者は増加しており、新規利用者は4名いたが、転居、死亡等による退所者もあり、延べ年間利用者数は減少した。利用者のほとんどは精神障がい者であり、体調が安定せず休むことが多いことも減少の要因の一つと考えられる。

就労支援では、作業所内での作業(ダイレクトメールの封入封緘作業、加工用りんごの芯取り、箱作り等やクラフトバンド製品、藍染め製品等の自主製品づくり)、施設外就労(えいぶるでの喫茶・売店の営業、生ごみ収集補助等)やバザー等幅広く取組むことができた。ただ、受注した業務量が利用者全員には十分でないときがあり、今後、新しい作業の開拓が急務である。

(4) 障害者地域活動支援センター「ひだまりの家」管理運営
(市受託事業)

開所日時	週5日(月～金) 9:00～15:00
開所日数	242日
定員	10名
延べ年間通所者数	783名 (前年比 35名増)
1日平均通所者数	3.2名 (前年比 0.1名増)
年間在籍通所者実数	15名(男性 4名 女性11名)
新規通所者	5名(男性 3名 女性2名)
通所希望見学者	12名 延べ体験日数35日
行事等	ひだまり作業所と同時開催

利用が定着している障がい者にとっては、生活のリズムを整えるうえで欠かせない活動の場所となっているが、前年度に比べ延べ年間通所者数は増加したものの、1日平均通所者数は3.2名と少ない状態が続いている。

また、通所希望見学者数、延べ体験日数も増加したが、体験後の利用につながらなかったり、利用し始めても定着しない者が多かった。利用者は精神障がい者がほとんどであり、対人関係を苦手とする者が多い事も原因の一つであると思われる。今後、改善点を考え定着に取り組み、利用に向けより一層の周知が必要である。